

日本大学大学院 総合社会情報研究科

特別研究（修士論文）の進め方
（ハイブリッドの学び、ゼミ生交流、個別指導）

在宅学修 のノウハウ

- 1999年4月に日本で最初の通信制大学院として開設されました。コロナ禍以前より実践してきた遠隔教育のノウハウを活かして学修指導を行います
- 科目履修では、ポイントを押さえた教材を活用しつつ、レポート提出を介した「在宅学修」が基本です
- 研究論文の作成は、ネットとリアルを組み合わせ、ゼミ指導教員が「個別指導」します
- 仕事や家事などの時間に関わらず、自分の使うことができる時間を有効に活用して学修を深めていくことができます

徹底した 個別指導

- オンライン指導（メール，Web会議システム）あるいは，対面指導（市ヶ谷キャンパス）の機会を活かして，一人一人の関心の深さ，個別に異なる修得レベルに合わせて，細かく指導を受けることができます
- 特別研究（ゼミ）だけでなく科目履修でも，学生一人一人のニーズ・レベルに応えた指導を実施します

生活スタイルに 合わせた 指導

- 特別研究（ゼミ）では、学生一人一人の事情に寄り添って指導を行います
- 生活スタイル，生活リズムに合わせてつつ，学修ペースをリードして，2年間で修士論文を書き上げ，修了できるように指導します

スクーリング

- 修士課程では、2年間の間に⁴一回、必修科目として、スクーリング（集中対面授業3日間）を受講します。例年、GW中に市ヶ谷にて対面で実施します
- スクーリングは、15コマ相当となります
- スクーリングで学ぶことの一つは、修士としての研究の仕方、論文の書き方です
- また、専攻分野の主な科目につき、受講して頂きます

学生同士の つながり

- 遠隔教育ですが、特別研究（ゼミ）の指導教員のほか、学生相互のつながりも深くなります。
- オンラインでの交流と、市ヶ谷で仲間と集うことを通じて交流が深まります
- また、スクーリング、オープン大学院を通じて、他専攻の学生とも交流できます
- いくつかのゼミは、夏休みなどに合宿を行い、ゼミ生同士の親睦を高めています

博士前期課程の 2年間で必要なこと

修士論文

学位（修士） 論文

- 大学院博士前期課程2年間を通じて修士論文を作成します
 - 論文を書くことは、本大学院入学の最大の目的であり、2年間を通じて最大の達成感が得られるものです
 - 特別研究（ゼミ）指導担当の教員と相談しながら、執筆テーマを絞り込み研究を行います

特別研究 (修士論文) の取り組み

- **研究テーマの提出と指導教員の決定
(事前相談)**

....

- 「研究計画書」の作成・提出 (1年次前期)
- 「研究計画書」に基づき個人研究開始

....

- 「修士論文・草稿」の作成・提出
(中間発表前)
- 中間発表会 (2年次の10月, 任意)
- 「最終稿(案)」作成
(2年次11月から12月)
- 「修士論文・最終稿」提出 (2年次12月)
- 面接試問 (2年次1月)
- 学位授与 (2年次3月)

- 大学院での学びをイメージして頂けるように「在学生・修了生の声」を用意しています

<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/voice/>

- そのほかにも電子マガジンには、先輩たちの学修の際の苦労話のほか、修士修了時の達成感などを書き連ねた**修士論文奮闘記**が掲載されてます

<https://gssc.dld.nihon-u.ac.jp/e-magazine/>

先輩たちの
声を聞く